

巻頭 先生なら、どうしますか？

探究学習に没頭した生徒が直面した壁。
通じない電話の向こうに教師が描いたその姿とは
宮崎県立宮崎東高校 定時制課程夜間部 西山正三

2 特集

定期考査は必要か？

- 4 事例1 再チャレンジ可能な単元テスト 岩手県・私立専修大学北上高校
- 8 事例2 全県立高校で定期考査を廃止 奈良県教育委員会
実践例 奈良県立橿原高校 / 奈良県立商業高校
- 15 事例3 単元テストと伝統の実力考査 鹿児島県立鶴丸高校
- 19 事例整理 定期考査の現状と課題
- 20 インタビュー テスト研究の専門家が説く「よいテスト」 名古屋大学大学院教育発達科学研究科 教授 石井秀宗
- 24 高校生座談会 私たちにとって「テスト」とは

26 発問・課題設定をキーに見る
主体的・対話的で深い学び 授業実践

26 国語
宮城県涌谷高校 根元 学

30 化学
東京都立竹台高校 折霜文男

お勧めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

34 探究学習 つながり、伴走する教師たち

奈良県・私立奈良育英中学校・高校
テーマ 探究×進路

お勧めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

36 指導変革の軌跡

石川県立大聖寺高校
校内研修

お勧めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

40 大学入試トレンド解説

新課程1期生の志望動向と
学習の特徴から見えてくる指導のポイント

お勧めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

48 Reader's VIEW

VIEWnext 高校版は、2024年8月15日に創刊50周年を迎えます。
そこで、創刊50周年を記念するオンラインセミナーを開催いたします。
詳しくは、最終ページのお知らせをご覧ください。

<https://view-next.benesse.jp/>

本誌記事は、ウェブサイトVIEWnext ONLINEでもご覧いただけます。

印刷製本／(株)協同プレス 編集協力／(有)ペンダコ 執筆協力／二宮良太 撮影協力／浅野優香、
荒川潤、筒井岳彦、ヤマグチイッキ イラスト協力／カモ
※本文中のプロフィールはすべて取材時のものです。また、敬称略とさせていただきます。
※本誌記載の記事、写真の無断複写、複製及び転載を禁じます。 ©Benesse Corporation 2024

定期考査は必要か？

定期考査を廃止し、各教科・科目で単元ごとに実施する単元テストを導入する動きが徐々に全国の中学校や高校に広がりつつあります。

これまで多くの学校で欠かすことのできない評価方法として実施されてきた定期考査ですが、その意義・必要性を問うきっかけを学校現場にもたらしたと考えられるのが、高校では2022年度から実施された現行の学習指導要領です。それまでは定期考査などのペーパーテストで「知識・技能」を中心に測り、その結果が評定を算出する上で大きなウェイトを占める傾向がありました。しかし、現行の学習指導要領では、「知識・技能」以外の観点でも評価する観点別学習状況の評価の実施がこれまで以上に求められており、定期考査中心の学習評価のあり方に改善の余地があることが示されました。

本特集では、定期考査が抱える問題を整理しながら、その解決の糸口を、事例を通じて考えていくとともに、「定期考査は必要か？」という問いを探究してまいります。

VIEWnext 編集部 統括責任者 柏木 崇

P.4 事例1

再チャレンジ可能な単元テストによる評価で、
目標に向けて主体的に学ぶ意欲を育む
岩手県・私立専修大学北上高校

P.8 事例2

学習評価のあり方を見直す起爆剤として、
全県立高校で定期考査を廃止

奈良県教育委員会

実践例 ● 奈良県立^{かしはら}檀原高校

教師間の密な対話を通じて評価方法を毎年更新。
生徒の質問の質が上がり、欠点者が減少

実践例 ● 奈良県立商業高校

実技も評価に組み入れ、指導と評価の一体化を推進。
資格取得率向上にもつながる

P.15 事例3

単元テストと伝統の実力考査で高い目標の実現を支援
鹿児島県立鶴丸高校

P.19 事例整理

自校の定期考査の現状と課題についての整理が
議論の第一歩

P.20 インタビュー

「よいテスト」は、生徒と教師をつなぐ
学びのコミュニケーションツール

名古屋大学大学院教育発達科学研究科 教授 ^{ひでとき}石井秀宗

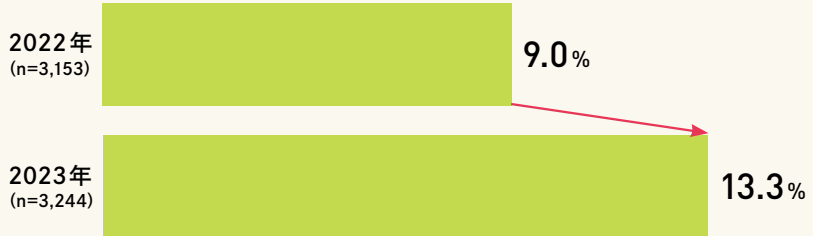
P.24 高校生座談会

私たちにとって「テスト」とは

高校教師の定期考査に対する考え

Q1 貴校について、次のようなことはあてはまりますか。

◎ 学校全体で、定期考査の回数を減らすことを検討している



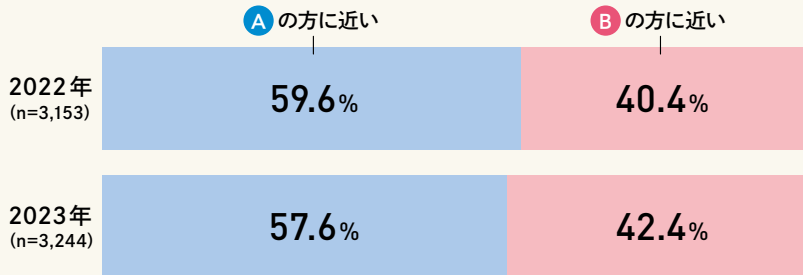
Q2 あなたが重視していると思う方はどちらですか。

A

指導改善や成績評価のためには、定期考査が欠かせない

B

指導改善や成績評価のためには、定期考査がなくても、単元テストがあればよい



※ Q1・2及びその結果は、ベネッセ教育総合研究所「学習指導調査 2022」「学習指導調査 2023」を基に編集部で作成。

現場の教師の声

定期考査は必要

- 複数の単元が範囲となる定期考査を実施することで、生徒の深い思考力を測ることができる。
- 定期考査で学習の量、質ともに少し高めハードルを設定し、乗り越えることが、生徒の成長には必要。
- 定期考査期間中や1週間前等は部活動等の活動の休止や活動時間の短縮があり、生徒の学習時間が確保される。
- 校内順位を知る重要な機会の1つ。
- 定期考査期間中はどの生徒も学習に没頭しやすい環境になる。

定期考査は不要

- 全校または学年で一斉に実施するため、出題範囲が単元の途中になることがあり、単元ごとの評価が行いにくい。
- 考査と考査の間の空きが長く、生徒の学習上のつまずきの発見や、理解度の確認の機会として不十分。
- 出題範囲が広く、生徒はいわゆる「一夜漬け」で乗り切り、考査後、学習した内容を忘れてしまうことがある。
- 考査前も含め、定期考査期間中は、部活動や探究学習等の諸活動を休止しなくてはならない。

定

定期考査を廃止している高校は現時点ではまだ少ない。だが、定期考査を廃止したり、実施回数を減らすことを検討している高校は着実に増えており(Q1)、また、「指導改善や成績評価のためには、定期考査がなくても単元テストがあればよい」と考える教師は40%を超えている(Q2)。「現場の教師の声」が示すように、定期考査の存続にも、定期考査の廃止に

も、それぞれ納得できる理由が存在する。観点別学習状況の評価の実施がこれまで以上に求められる中、学習評価において重要な役割を担ってきた

定期考査は、これからも必要なのだろうか。その答えは、どのような点を考えれば出るのだろうか。

先生方とともに考えたい「問い」

自校では定期考査は必要なのだろうか。その答えは、どのような点を考えれば出るのだろうか。